

辻谷 それは15号以後でしょう。第1号というのは壁新聞でね。無いはずですよ。

なぜアメリカがそういう資料を残しているかという、戦後文部省が発行した「民主主義」を読んで批判したものが、15号以後の「芦高新聞」に載って、それがたまたま占領軍の手に入ったのでしょうか。というのはね、長いこと産経新聞の記者をしていた馬淵良俊がね、本山第一小学校に居た頃に、壁新聞で第1号を作った。これはほんの手書きのもので、7回生が記念祭の時に展示に出展して、その後捨ててしまよかった。(笑い) 私はね、芦屋中学から新制高校へ通ずる一つの柱として一番大きいのは、先程言いました戦争中のやむを得ざる学区制で、彼ら優秀な者が入って来て、それが、旧制中学から新制高校が始まろうとした学年に居ったわけです。それからもう一つは、もと校友会と称しておったのが戦争の急迫の中で報国団という名前になったんだが、敗戦になって、その報国団がまたもとの名前にかえて校友会になった。そしてもう一方で生徒が主体になった自治会を作れと言うわけだ。だから、校

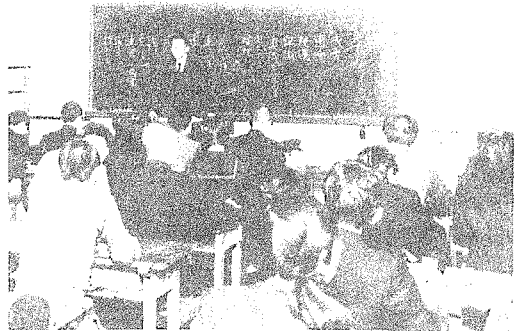


自治会の創設・藤岡内閣発足(昭24)

友会と自治会と、二本立てで出発した。そうしているうちに、新制高校が始まる間際が始まった頃か、この組織を統一しようという意見が出て来た。そこで5回生の三船と6回生の^{たぐみ}宅見というのが、旧制姫路高校の自治会規約を参考にして校友会と自治会とを一緒にした規約を作った。その時僕は思ったなあ、レベルの高い旧制高校の自治会規約を参考にしてあんな規約作って、よう使いこなすかなあ……

とにかくあの頃は、世の中全体がそうやったが、学校の中も、言ってみれば、一つのカオスの状態やねえ。あの石坂洋次郎の小説、映画にもなった、「青い山脈」的な世界——カオスだった。なにか、皆希望持とったなあ。

それからね、もう一つある。旧制中学から芦屋高校に移行する時に、やっぱりなんと言っても、「男女共学」ですよ。



新制芦屋高校発足当時の授業風景(昭25)

司会 そのお話をお伺いしたかったんですが、一番変わったのは男子ばかりの中学校から男女共学ということですね。御影の方から女生徒が来たという記録がありますが、その辺のことを曾谷先生、お願いします。

男女共学と家庭科

——家庭科の授業の開始や
当時の女子生徒のようす

曾谷 私は24年の4月に赴任して参りましたが、当時のそれまでの過程をいろいろ資料を調べてみましたが、家庭科関係の資料はみつかりませんでした。野球関係の資料が随分手元にございましたが…。ご一緒しました辻田先生にお電話でお伺いしましたがやはり不確かでした。結局23年10月に辻田先生が既にこちらに居らしてましてね。尚資料によりますと、23年の6月29日に交流生が83名御影高校から転入して来ています。さらに24年5月2日には、3年生12名が御影から転入して参りました。私が参りました時には、辻田先生と二人で家庭科を担当したわけです、最初、阪部校長から呼ばれてね、「家庭科

を充実したいから是非協力してくれ」という要望がありました。自信がなくて2・3回お断りしたようなことがございました。ところが、「どうしても」と言われ、ついに内諾を致しました。それから2・3回、ミシン等家庭科の備品購入のためにおじゃまいたしました。最初、芦屋高校（旧小学校の建物）に参りましたところ、中は薄暗くてね、まっ暗な小使室からおばさんがすーっと出ていらして、（笑い）とっても気持ちが悪く不安だった思いが、印象に残っています。

24年に赴任して参りました時に、家庭科の部屋がございまして、調理教室が玄関を入りました東側の普通教室を改造した七輪のある部屋だったと思います。ですから裁縫教室も普通教室を代用して使っておりました。

それまでに交流で来ていた女生徒に対しては、御影に椿先生という有名な家庭科の先生がいらして、こちらの方に出張して家庭科の授業をなさっていたようです。

金坂 交流授業やりましたね。

家庭科施設の完成

曾谷 そのようですね。ですから24年に参りましたものの、家庭科の施設・設備も殆ど皆無といった、とても不自由な状態でした。24年の秋過ぎだったと思いますが、阪部校長から、南館に普通教室とその東に家庭科の教室を造るから考えよ、と言われました。早速、家庭科講義室・調理教室・洗濯染色教室・被服教室・準備室の設計にかかりました。私はしろうとですのに臆面もなく図面を描きました。施設ができて、多分調理台とか付属的な内部設備はとも備え付けてもらえないように思いましたので、例えば調理実習室の調理台・食器戸棚・被服教室の鑑賞戸棚等の設備・備品をできるだけ施設に組み込みまして、建築段階で一応整いますように配慮しました。とりあえず図面を県に提出しましたが、その後のいろいろ考えましてね、どうしても調理実習室の内部設計を変更したいと思いつき、県に2・3回通いまして、県の建築課で図面を引き直しました。今にして思えば冷汗ものです。

やっと施設が出来上り、25年11月30日に完工式と

なっていますね、夏休み過ぎに一応出来たんですが、調理教室の一部がはじめ言ったとおりに出来ていなくて、「どうしても改修してくれ」と言いましたら、阪部校長が「それは業者がかわいそうだ、辛抱せえ」と言われました。それを私が承知致しませんでね。そのためにまたそれを壊して改修するのに一か月以上かかりましたことなど思い出します。

こうしてやっと完成しまして、生徒も、先生方も張り切って、とても楽しく授業が出来たように思います。

ところが、私は皆さんに宣伝したり紹介したりしませんでした。遠くは福井県の敦賀とか、兵庫県はもとより京都府の高等学校家庭科研究会の先生方が、次々に見学にいらっしゃいました。そして、京都府の高等学校の先生が、それぞれの場所を写真に撮って下さって送って下さりとても感激しました。

こうして完成にこぎつきましたが、まだまだ内部の備品等不十分な所があって、ここで思い付きましたのが文化祭のバザーなんです。大々的にバザーを致しまして、相当収益がありました。それで調理教室のオープンを買ったり、ミシンを買ったり、少しでも設備を充実させていこうというつもりでいたんですね。ところが、二年目でしたか教頭先生が「その収益を家庭科で独占することに（笑い）異論がある」と言われまして、その一部を自治会に納めて、残りではぼつぼつ充実するよう計画的に備品整備にあててまいりました。貴重な体験でした。

ところが、ある時に…（笑い）

福山 6回生が調理室へ入り込んで…（笑い）

曾谷 やっとバザーが終って、職員室に帰ってまいりましたら、調理室に明かりが点いてますでしょう。中で人が動いているんですね。生徒が中に入って残りものを漁っておりました。一応注意はしましたが、心から怒る気持ちにはなれませんでした。ところで、それにまつわる話ですが、その年度の卒業式のときに、石崎さん（自治会長でしたか）と⁵⁶尾見さんの二人がすばらしい花束を持って私の前に現われまして、何かかと思ひますと「先生、どうぞ、大変ご迷惑をおかけ致しました」と言って、花束をわたされました。嬉しいでしたね。今も、その時のス

マートな二人の青年の姿が、脳裏に焼きついています。

福山 あれ桜の花束言うけど……私はあれは夙川のあたりの何処かで……（爆笑）



中西先生 福山先生 曾谷先生

御影との交流

奎谷 「芦高小史」の記事で、「昭和23年6月28日併設中学三年生の御影高校への転出者の送別式を行う」と。それはいいんですが、その次の「6月29日、御影高校より交流生徒83名を受け入れる」と、それは何か間違いじゃないかと思うんだが。

福山 先生もそう思われますか。

奎谷 それから、「6月30日に御影高校へ交流生徒83名を送る」これも間違いではないかと思う。事実はどういうことではないかと思う。「9月6日御影高校へ高一の交流生徒38名を送る」「9月7日御影高校より高一の交流生徒38名を受け入れる」というのは正確でその通りだと思う。だから、先の83名というのは、何かの間違いか、おそらく38名が83名となった誤植がそのまま資料となって残ったのではないのでしょうか。それでこの83名という数が出たんじゃないかと思えますね。あとで調べてみますけどね。

実態は、御影高校から来たのは38名。私、ちょうどこの学年の学年主任をしていましたから、向こうから38名来るから、こっちからも同数出さんと釣り合いが取れへんというわけで、「どうや、君ら御影高校へ行くか」と呼びかけたんですが、ほとんど希望者が無いんですわ。（笑い）それで困ってね、「本庄・本山と住吉川から西の者はみな行け」と言った

が、とうてい38名に達しなかった。

御影からの交流生たちは、初めて男の学校に乗り込んで、自分たちからやって行こうかというような積極的な動機を持っていたりして、こわい女の子たちでした。（笑い）

曾谷 家庭科を教える立場から見ても、彼女達は、言うことも言いますが、やることもやりますし、大人の感じがしました。

奎谷 先程の話でありました県立三高女にいらっしやった椿先生を敬遠して来た者も大分居った。（爆笑）男女共学が始まって、なかなかおもしろい話がある。「男の学校へ来た。私達のクラブを作りましょう」というんで、ソフト・ボール部を作った。その当時の規程では、同好会としてしか出発できないんです。今でもそうですね。で、ソフト・ボールを始めた。ところが何と、選手一人に二・三人男のコーチがついとるねん。（爆笑）第1回の自治会長になった藤岡など率先してコーチになっとる。サードの側に居って、口出しして、守っている女子の仕事にならへん。どれぐらい続いたかなあ、一年ぐらいしか続かなかったと思うが。まあ、女子にしたら、言ってみれば「男もすなるベース・ボール」をなあ……（笑い）

司会 では、男女が初めからかなり和気藹藹として……

奎谷 いや、それがねえ、いろいろとありますわ。和気藹藹さしたかったんやけどなあ。表面はそうなっているんやけど、やっぱりなかなか本当に溶け



ソフトボール部の創設 “男もすなるベース・ボール” 込んでとは……。高一の38名はまだよかったが、高

二の方へ入ったのは十何名でしょう。これが5回生ですわね。孤立とは言わないが、実際に少数民族だからなあ。

福山 三年生に入ったんでしょう？

李谷 津田とか何とか、女傑……

福山 12名でしたか……？

李谷 おもしろい話があってね、昼飯を一緒に食べないで、皆屋上へ上がって食べる。「先生、あれ何とかしてください」「お前ら、自分でやらんか」、そんな調子で、女子だけが屋上へ上がって弁当を食べて、他の者は教室で食べている。

曾谷 人数は少なかったですが、存在は随分目立っていました。

李谷 向こうには椿先生というこわい先生が居られて、それを敬遠して来たのも居ったが、こっちにもこわい先生がいらっしゃってね、音楽の池尻先生ですわ。集まって騒いでいた時に、池尻先生に一喝喰らってね。(笑) 芦屋へ来て「芦高の自由」と思ったら、なかなかそうもいかないなと思って、(笑) かなり彼女らも尻込みしたらしい。

クラブ活動の発展

——野球部の全国優勝を
はじめとするクラブの活躍

司会 記録に拠りますと、21年の夏に「全国中等学校優勝野球大会」に野球部が出て、27年「全国高校野球選手権大会」に優勝する、という野球部の黄金期があるわけですが、その辺の話を福山先生お願いいたします。

福山 23年4月宮川小(旧校舎)に移った時に、私たちは総勢9名で着任しましたが、その内8名が私を含め新卒でした。「これでやっと授業が賄える」と、先生方も喜んでおられました。岡本仁先生も組合の専従で、他にも休職中の方など実際授業に出ておられたのは20何名でしたか。そういう時に私達が赴任し、学校の授業が一斉にできる態勢が整い、新制高校の時代が始まるわけです。新制高校1回生(芦高4回生)から教えたことになります。

私達が赴任するまでは、戦後の混乱期で校舎も点々と移動せざるを得なかった大変な時代です。今

からは想像もできない経済状態の中で、特に都市部は廃墟からの再建であり、教育の復興も百八十度転換した理念からの出発ですから、先生方のご苦勞も想像できるというものです。そのような中での野球部の活躍ですからどのような魔力を秘めているのかと思いました。

野球部結成の頃

野球部創立について岸先生からお聞きした話ですが、海技専門学校で体育大会を開いた時(昭和21年5月)、橋本、有本の両君が野球部の結成を申し込んできたが、職員会議で時期尚早ということで同好会から出発したそうです。私共が赴任しました時は、運動場もありませんし、どのように練習しているのかと一番に思いました。当時は、現在の赤塚山高校まで、放課後になるとバックヤバットを持って練習に出かけていました。さすがだ、やっとなるなあと感じました。有本、田中、荒石君など5回生が中心で、6回生の水田、木下、渾大防君などが活躍していました。

草創期の部長と監督



野球部誌「翠球」

野球部の歴史ですが、野球部誌に「翠球」が発刊されております。故人になられた伊東糾先生が苦勞して作られたのですが、その中で各年度の部長や部員の思い出の記事である程度歴史を追うことができます。先ほどの男女の交流の記録ではないが、明らかに違ってる所もあります。例えば24年度は、岸先生は転任され居られないのに部長に名前がでています。この年は中村先生の筈です。詳細はともかく年表の部分に聞いた話と違っているところがあります。戦後の混乱と貧困の時に甲子園出場という偉業を成し遂げたのですから、学校の運営面特にクラブの担当者など種々困難があったであろうことは想像できますが、実態と記録をどう受け止めたらいのか迷いますが、正せるものは訂正しておいた方がよいと思います。